

# 2011「植村直己冒険賞」受賞者が決まる

自由な世界で精いっぱい生きる  
ヨットで単独「最高齢・最多」世界一周を達成  
さいとう みのる  
斉藤 実さん

▲単独で世界一周に挑戦し続ける斉藤さん(2008～11年「チャレンジ8 西回り単独世界一周」)(写真提供:月刊KAZI)

2月16日、植村直己さんの母校の明治大学紫紺館(東京都千代田区)で、2011「植村直己冒険賞」受賞者発表の会見を行いました。今回は、2011年に日本人が挑んだ207件の冒険行の中から、ヨットで単独「最高齢・最多」世界一周を達成した斉藤 実さん(78歳、東京都江戸川区在住)を選びました。

斉藤さんは、1990年(56歳)からヨットで単独世界一周に挑戦し、2004～05年には無寄港での世界一周を達成。世界最高齢(71歳)と最多回数(7回)の記録保持者となりました。2008年から自身が持つ無寄港での記録更新と通常と逆回りになる過酷なコースに初めて挑みました。しかし、航海中にヨットのトラブルが発生し、修理のためやむなく寄港し、無寄港での世界一周の夢は途絶えました。さらに、緊急手術や寄港地での交通事故で負傷するなど数々の苦難に遭いながらも、決して諦めることなく、約3年を費やして8回目の世界一周を達成し、最高齢(77歳)と最多回数(8回)の記録更新となりました。

東京での会見の様子は、植村直己さんの母校の府中小学校にも中継され、斉藤さんは「若いときは登山をしていたので、植村直己さんの賞をいただいて非常にうれしい。過酷な航海で強い精神力が培われた。厳しい環境に身を置いて、自分自身を高め、新しい未知なる世界へ飛び出す勇気を持ってほしい」と喜びの言葉を述べました。

なお、本賞の授賞式は、6月2日(土)に日高文化体育館(日高町祢布)で行います。授賞式では、冒険賞の授与のほか、斉藤さんの講演も行う予定ですので、皆さん、楽しみにお待ちください。

《問合せ》植村直己冒険館 ☎44-1515



▲単独航海では短時間の睡眠で忙しい毎日を強いられる(写真提供:サイトウ・チャレンジ事務局)



▲「冒険賞」を受賞し、喜びを語る受賞者の斉藤さん



▲東京会場の発表の様子を見守る府中小学校6年生の児童と関係者ら



▲愛艇「Nicole BMW Shuten-dohji III」  
(写真提供：サイトウ・チャレンジ事務局)



▲2008～11年世界一周(西回り)ルート

### ■非常に過酷な西回りコース

ヨットでの世界一周は、海流、風向きとも追い潮、追い風になる東回りが多い。西回りは、全てが逆になり波も風もヨットの前から向かってくることが多く、方向転換を繰り返しながらジグザグに航行しなければならないため、体力的にも厳しく、難易度が非常に高くなる。

### ■単独航海の厳しさ

航海中はずっと1人であるため、1日に眠るのは4～5時間程度。海が荒れた時には、オートパイロット(自動操舵装置)が使えないため、寝ることができない。36時間舵を持ち続けたこともある。

## 斉藤 実さんプロフィール

- ・1934年、東京都生まれ(東京都江戸川区在住) 海洋冒険家
- ・1973年からヨットを始め、以来、38年間、一貫して単独で海に挑戦し続ける。総航海距離24万海里(約445,000km)以上



(写真提供：月刊KAZI)

### ■主な冒険等経歴

- 1990～91年 BOC(※注)単独世界一周レース初出場(出場クラス3位)
- 1994～95年 BOC単独世界一周レース出場(出場クラス6位)
- 1998～99年 「アラウンド・アローン」と改名した単独世界一周レース出場
- ※65歳で完走(出場クラス5位)
- 2004～05年 東回り単独無寄港世界一周達成
- ※世界最高齢(当時71歳)・最多(7回)
- 2008～11年 西回り単独世界一周達成
- ※世界最高齢(77歳)・最多(8回)記録更新

### ■賞歴

- 2006年 米国ロードアイランド州ニューポート博物館殿堂入り
- 2007年 米国クルージング・クラブ・オブ・アメリカブルーウォーター・メダル受賞(アジア人初)

### ■著書

『孤闘(Fighting Alone)』

### ■「チャレンジ8 西回り単独世界一周」挑戦の記録

2008年9月28日 横浜港を出港。当初は、横浜港開港150周年記念に合わせ、2009年の春に帰港する予定であった。出港から2カ月後に艇体にトラブルが発生し、やむなくオーストラリア・シドニーに寄港した。この時点で、無寄港での世界一周の夢が途絶えた。

2009年4月 南米・チリでラダー(舵)のトラブルが発生し、地元の船によって救助される。艇体に大きなダメージを受け、また気象の問題もあり、約9カ月間プンタアレナスに足止め。その後、アメリカ・ハワイで艇体のトラブルがあり、その修理中に交通事故で大けがを負い、1年近く航海をストップせざるを得なかった。2011年9月17日 横浜港へ帰港。

何歳になっても

衰えないチャレンジ精神

斉藤さんは、中学生のころから山に親しみ、数々の山に登る「ロッククライミング」に夢中になっていました。39歳の時に山と同様に境界線のない広大な海を走るヨットの魅力にどんだんのめり込みました。20歳のころから考えていた「50歳で自分の好きなことに打ち込みたい」と、仕事を引退し、単独の外洋セーラーの道に進みました。56歳からは、単独世界一周

レースに3回出場し、全て完走。70歳で自身初めての無寄港世界一周に挑戦し、単独無寄港世界最高齢(当時71歳)と最多単独世界一周(7回)の記録を打ち立てました。今回の挑戦では、過酷な西回りの航海を豊富な知識と経験、強い精神力で乗り越えており、その行動は、植村さんの精神につながるものがあります。78歳となった斉藤さんの次の目標は、北極海をヨットで航行することです。夢に向かって日頃から体を鍛え、強い信念を持って努力を続ける姿勢は、私たちにいつまでも



▲約3年ぶりに帰国し、船上で笑顔を見せる斉藤さん(写真提供：月刊KAZI)

挑戦する気持ちを持ち続けることの大切さや勇気を与えてくれます。

※注 BOC…British Oxygen Challengeの略。世界最高峰のヨットレース